

本日の欠席者

本日の授業内容 (文章でまとめましょう)

19世紀末、20世紀初め、ヨーロッパを中心に、第二次産業革命による生産拡大と賃金上昇、植民地からの収益などが生活水準を上りた。その結果、農民、労働者など職業的な枠を超えた新しい集団(大衆)が国民の多くを占める大衆社会が成立した。また第二次産業革命により、新商品の大量生産され、それらは大量消費された。労働時間の短縮により、生まれた余暇を人は楽しんだ。これが大衆文化の萌芽であった。そしてこの時、アメリカも同様に大衆化していた。広告を用いる大量販売に支えられ、自動車や冷蔵庫、洗濯機などの電気製品が大量生産され急速に普及し、アメリカ式生活様式が確立した。さらには映画やラジオといったマスメディアにより、アメリカの大衆娯楽が世界に広まった。また、各国で義務教育が整備されたことにより識字率が上がり、新聞が生まれた。マスメディアの発達は大衆操作の手段はうみながら、右左の面での国民統合を進めた。

授業の感想

この辺りから一向に社会が現代の形に近づいてきているなという印象を受けました。僕は勝利は第二次世界大戦が終わったぐらいからいわれる大衆社会のうなずきが出来上がっていたのかと思っていたので、この時代に大衆文化が始まっていたのには正直驚きました。特に一般の人々は畑を耕すか工場に勤めるかの二択だと思っていたので、余暇に娯楽を楽しんでいたという辺りにびっくりしました。
また、今回出てきたアメリカの繁栄も印象的でした。もちろん現在ではアメリカはとて大きくて力のある国だと思います。今回の授業ではその強さの基礎となる部分が出ていたように感じました。具体的には第一次世界大戦の際の物資提供・資金貸与による経済的な発展です。また、大戦で戦場にならなかつたことも大きいと思いました。更に、ここでしっかりと独占の抑制、所得格差や労働条件の改善などを行ったことが良かったのかと考えました。一方で、そうした繁栄はアングロサクソン系プロテスタントの白人中産階級のものであり、黒人などへの差別意識の強まりは残念ながら現在も完全に払拭してはいないと思っております。
マゼ、自分たちは戦争の犠牲者で、異質者の排除を望む者か

雑記 (前の人の感想を読んで思ったこと、今までの授業で感じたこと、歴史について思うこと、最近興味を持ったニュースの話など、何か書いて下さい。)

最近よく聞くパレスチナとイスラエルの紛争について調べてみました。調べてみるとこの紛争には長い歴史があり、1948年から続く中東和平問題の最新の衝突であるということが分かりました。その紛争のきっかけまで遡るととてまことに書ききれないくらい複雑で、武力での問題解決は良くないなと思いつつも、こういう各国、組織、集団の事情があることを知ると少しだけ戦争が起こるのって仕方のないことなのかなと考えてしまいます。しかし、じゃあ戦争で事態が丸く収まるのかと言えばそんな事はある訳ないと思うし、実際に過去に争いにより、表面上は解決したように見えてもその裏でたくさん被害や憎しみだけが残されていたような戦争はいくつもあります。多くの場合、話し合いなどを通じて解決には達しないから最終手段として武力を行使しているという面が強いと思うけれど、その武力による無理無理な表面的な問題解決に何の意味があるのか、かと思ってしまう。先生はどうお考えですか?

担当者コメント

このコメントに書いてあること、この考えと同じように、武力で短期的に解決したと見えて、結局この憎悪の気持ちは消えず、又は増加する可能性がある。これは強制的に解決するんではないかと思ってしまう。武力は手段であって目的ではない。このようにして、この中東問題に扱うのであれば、イスラエルと関わりを断絶した首相をアラブの国に送り出すとか、自国の国民から階級を下げたので、その点で見てもらうか。

23.10.21

